



# スマイル



令和7年11月  
狭山市立入間川東小学校  
ことばの教室  
TEL 04-2952-3118

2学期も折り返しの時期となりました。運動会が終わり、急に秋が深まってきました。ことばの教室では、1学期末に1名のお子さんが卒級となり、10月からは2名の新しい仲間を迎えました。今年度のことばの教室は満杯で、常に待機のお子さんがある状態です。一人一人の個性や課題に向き合い、毎回の授業でどんなことができるようになるか、どんな反応があるのか、楽しみに準備をしています。2学期後半もどうぞよろしくお願いいたします。

## 【行事予定】

### 11月



4日(火) 市教研出張(午後指導なし)  
6日(木) 専門研修(午前)  
12日(水) 埼特研出張  
(2校時～ 指導なし)  
14日(木) 県民の日  
17日(月)～21日(金)  
年長児ことばの相談週間

### 12月～



1日(月)～12日(金)  
指導参観  
18日(木) 指導終了  
22日(月) お楽しみ会  
(15:00～16:15)  
.....  
1月13日(月) 3学期 指導開始

通級に通って  
きているみんなの  
ための会です！

## 【保護者の方へお願い】

いつも付き添っていただき、ありがとうございます。お車で来校されるときは、フロントガラスに「駐車許可証」を置き、「竹・言」と書いてあるスペース(3台分駐車可)に停めてください。そちらが空いていないときは、空いている場所を探して停めていただくことになりますが、「駐車許可証」を必ず見えるように置いてください。本校は駐車場が狭く、ご迷惑をおかけしております。ご協力をお願いいたします。

## 【担任の先生方へ】

お忙しい中、いつも連絡ファイルに子供たちへのコメントを書いてくださり、ありがとうございます。先生方のコメントを授業の始めに子供たちと読み、励みにしています。お忙しいときは、サインや印でも大丈夫です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

## 専門研修について



ことばの教室では、年5回、専門研修を行っています。国立リハビリテーションセンター病院のST(言語聴覚士)の先生方や文京学院大学人間学部の教授の方々にご指導していただいています。どの先生方も、各分野でご活躍されている著名な先生方です。

直接、指導を見ていただいたり、本人の状態を確認してアドバイスをいただいたりしています。保護者の方との面談も行っています。該当する場合は、担当から保護者、担任の先生にお知らせをします。

研修で学んだことを、子供たちへの指導に生かせるようにしたいと思います。

## 吃音のある人が働く「注文に時間がかかるカフェ」

9月22日(月)朝日新聞の朝刊に、大きく取り上げられていました。移動型店舗として、これまでに71回開かれてきましたが、72回目となる今回は埼玉県の新座市にある高校の文化祭で開かれました。

楽行

月曜

2025年(令和7年)9月22日(月)

第3種郵便物認可

大学生スタッフ2人(中央)らと奥村安莉沙さん(左) 11月9日、新座市



## 注文に時間かかるカフェ 接客への挑戦 後押し

### 吃音悩んだ奥村さん 移動型店72回目

「注文に時間がかかるカフェ(注力カフェ)」。「風変わった名前のカフェは、「やりたいこと」に挑戦しようとする人の背中を押す。新座市で1日限定で開かれ、訪れてみた。

#### 新座で限定オープン

9月中旬、県立新座柳瀬高校の文化祭。大勢の人でにぎわう校舎の一角に、そのカフェはあった。入店する前、スタッフから説明を受ける。

「『リラックスしなさい』などのアドバイスは必要ありません」「話し方をまねしたり、からかったりしないでください」

ここは、接客スタッフに応募した「吃音」のある大学生2人が働く。

吃音とは言葉につまり、うまく話せないことのある発話障害の一つ。

全国に約120万人いるとされ、米国のバイデン前大統領もかつて悩まされていた。

ときおり言葉につまりながら

も、2人は客との会話を楽しむ。

スタッフの一人で大学1年生の落合紬さん(18)は喫茶店のキッチンでバイトをしているが、接客は初めて。関心はありつつも「怖い」と思っていた。

初体験の接客は「楽しい」と笑顔。そして、「吃音を知るときは来店していた本多菜摘さん(33)は熱心に話を聞いていた。息子(5)に吃音があり、小学校に入る前に周りに伝えるか悩んでいたという。

伝えるかどうか。伝えるにしても一部の人のみにしか聞かせるか。スタッフのこれまでの経験を聞き、「(同じ当事者でも)人によって選択は違うことを知ることができてよかった。本人がどうしてほしいか、ですね」。

カフェの始まりは、吃音がある女性の悔いを残したくないという思いからだった。

各地で注力カフェを開く奥村安莉沙さん(33)が吃音を自覚したのは小学2年生のころ。教科書の音読で言葉が出ないことがあった。それから、話していると振り向いて笑われることも。

奥村さんは「あ行」の言葉が出づらかった。「自分の名前が言えず、就職活動では200社以上の面接に落ちた」

新卒で介護会社に勤めていた

が、20代半ばに留学のため退社。

帰国後に都内の広告会社で働いていたが、そんな時コロナ禍が襲った。

多くの人が亡くなるニュースを見て、「自分もどうなるかわからない。やり残したことは……」と考えた。

#### 10歳のころからの夢

10歳のころに未来の自分に向けて書いた手紙があった。「大人になった私へ。カフェで働く夢をかなえていますか?」

子どもの時から夢見ていた「カフェ店員」。大学生になってやってみたくて思っていた。でも、話すことに自信が持てず、人と会話することのない車部品の組み立て工場などでのバイトを選んだ。

「後悔したくない」

2021年8月に「注力カフェ」を始めた。152日限定の移動型の店舗でこれまでに37都道府県で開き、今回が72回目。

1回目から吃音のある大学生スタッフを募集する。「やりたい時にやりたいことをやってほしい」

奥村さんはエールを贈る。「ここでは『失敗』という概念はない。恐れずに参加してほしい」

(本田 隼)